

展示室4 オースゴールストランのエドヴァルト・ムンク

2018年7月7日(土)～8月26日(日)

「遙か彼方…大気と海が会うあの柔らかい線…存在と同じように捉えどころがなく…死と同じように捉えどころがない…憧れと同じように果てしない」

オースゴールストラン(Åsgårdstrand)を表わしたエドヴァルト・ムンク(Edvard Munch、1863-1944)の言葉です。オースゴールストランは、オスロからは南に100kmの位置にある、ノルウェーの海沿いの避暑地です。ムンクは1889年から毎夏を家族とこの地で過ごし、1898年7月にはオースゴールストランの海沿いに小屋のような家を購入、オースゴールストランの景観が溶け込んだ、多くの作品を制作しています。今回は《病める少女》や《クリスティアニア・ボヘームⅡ》などクリスティアニア(オスロ)時代の作品を含む当館のムンク・コレクションとオースゴールストランのムンク関連写真とを展示することで、ムンクの作品世界と現実のオースゴールストランのイメージを比較検証していきます。また《太陽に向かって》については、オスロ大学アウラ講堂壁画の習作を発表した1914年の展覧会ポスターのデッサンといわれています。この講堂の壁画は巨大な太陽が有名ですが、この太陽はオースゴールストランの太陽ではなく、オースゴールストランの次にアトリエを構えたクラゲレー(Kragerø)の太陽といわれています。クリスティアニア(オスロ)、オースゴールストラン(Åsgårdstrand)、クラゲレー(Kragerø)と、それぞれの土地とムンクの変遷を断片的ではありますが、お楽しみください。

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	備考
1	オースゴールストランの夏	1889頃	油彩・板	26.5×34.8	
2	病める少女	1894	ドライポイント、ルーレット・紙	38.9×29.2	
3	その翌朝	1894	ドライポイント、アクアチント・紙	19.1×27.3	
4	クリスティアニア・ボヘームⅡ	1895	エッチング、ドライポイント、アクアチント・紙	29.4×39.4	
5	マドンナ	1895/1902	リトグラフ・紙	60.5×44.2	
6	別離Ⅱ	1896	リトグラフ・紙	41.8×64.5	
7	愛の花	1896	リトグラフ・紙	67.2×36.0	寄託作品
8	女の髪の中の男	1896	木版・紙	54.8×38.0	
9	月光Ⅰ	1896	木版・紙	40.3×47.8	
10	女・三相	1899	リトグラフ・紙	46.0×59.6	
11	宇宙での出逢い	1898-99	木版・紙	18.2×25.2	
12	少女の頭部	1902	ドライポイント・紙	31.9×24.0	
13	ヴァイオリン・コンサート	1903	リトグラフ・紙	48.0×56.0	
14	ブローチの女(エヴァ・ムドッチ)	1903	リトグラフ・紙	60.0×46.0	
15	嫉妬	1914	エッチング、ドライポイント・紙	19.5×27.0	
16	太陽に向かって	1914	リトクレヨン・紙	87.0×64.0	
17	棧橋の少女たち	1918-20	木版、リトグラフ・紙	49.8×42.7	